

【1. なし 2. あり】

5) 地区医師会との連携はいかがでしたか(該当するものに○をつけて下さい)。

【1スムーズであった 2難しかった 3その他】

[	具体的に	]	[	具体的に	]
---	------	---	---	------	---

6) 管内の関係機関との連携会議を市町村が開催しましたか。

【1開催していない 2開催した】 2開催した方は→次へ

①会議の構成メンバーの部局、機関、団体名を記入して下さい。

1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____
6 _____	7 _____	8 _____	9 _____	10 _____

②連携会議のテーマはどのようなものでしたか。主なものを記入してください。

記述欄
-----

### Ⅲ 発生状況

1) 発生状況(7月23日以前)の情報の入手はどこからでしたか。(複数回答可)

1. 市町村他部門(教育委員会等) 2. 県保健衛生部局 3. 保健所 4. 医師会

5. マ ス コ ミ 6. そ の 他  
( )

2) 職員が情報を共有するために、全庁的に情報を一元化して集約・発信する部門が定められましたか。

【1. なし 2. あり】

3) 2)で「あり」の場合、その部門は機能しやすかったですか。



「2. はい」と回答された方は、困難や課題についてお書き下さい。）

記述欄

## VI 行動計画の作成について

1) 行動計画は作成されていましたか。

【1. 作成してない 2. 作成中 3作成済】 2と3の方は  
→2)へ

2) 作成にあたり、課題があったらお書き下さい。

記述欄

3) ひとり暮らしの人や家族全員が感染した家庭へのサポート（食糧・薬）の配布方法や見守りの方法について、検討していたら記入して下さい。

記述欄

4) 感染防護の資材等を備蓄するにあたり、困難なことがあったら記入してください。

記述欄

5) 職員の健康管理をどのようにしますか。

記述欄

ご記入ありがとうございました。

以下の質問は、相談対応等をされた保健師さん等にご記入をお願いします。

**以下の質問は、相談や健康教育を行った保健師さん等がお答えください。**

## Ⅶ 相談窓口体制について

- 1) 窓口をどこに設置しましたか。 \_\_\_\_\_ (複数可)
- 2) 窓口対応者は誰でしたか。(職種、人数) 職種 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_ 名で対応
- 3) 相談時間や休日の対応はどのようにしましたか。

相談開設時間(平日)・休日の対応方法・相談者のローテーション等

- 4) 月別相談件数はどのくらいでしたか、概数で結構ですのでお書き下さい。

\_\_\_\_\_件/5月、\_\_\_\_\_件/6月、\_\_\_\_\_件/7月、\_\_\_\_\_件/8月、\_\_\_\_\_件/9月

- 5) 相談マニュアルを作成しましたか

【 1. いいえ      2. はい 】

## Ⅷ 相談内容について

相談の内容はどのようなものでしたか。(相談内容をまとめたものがあれば、添付下さい)

不安・訴え	対 応 (聴いて受け止める、知識の提供、連携機関の紹介など)

**Ⅸ 情報発信・健康教育について**

1) 集団発生前に住民や施設向けに対応していたことがありますか。

(広報などの資料があれば添付下さい。)

○住民

- ・ 個人の予防 :
- ・ 家庭内での感染予防 :

○施設 (福祉施設・高齢者施設等)

2) 集団発生後<sup>後</sup>はどのように対応していましたか。

<p>○住民</p> <p>○学校</p> <p>○施設（福祉施設・高齢者施設等）</p>
---

3) 特に外国人やひとり暮らしの方への情報発信について工夫したことはありますか。

<p>記述欄</p>
------------

4) 自分が感染した場合、外出を自粛し感染源にならないようにする等、自分と周囲の人たちの身を守るというメッセージはどのように伝えていきますか。

<p>記述欄</p>
------------

5) その他、広報や健康教育で重要と思われたこと、有効であったことがあれば、お書きください。

<p>記述欄</p>
------------

## X 集団発生への対応

1) 集団発生はありましたか。

【1. なし            2. あり】 ありの方は→2) へ

2) 集団発生の際、市町村としてどのように対応したか記入して下さい。  
(初期・拡大期・蔓延期等に分けて記入しても結構です。)

学校

施設（福祉施設・高齢者施設等）

#### **XI 要支援者への支援**

重症化を予防するために、市町村として下記の対象に、どのような支援（県や保健所、医療機関との連携も含む）をしようと考えていますか。

妊婦

子ども

高齢者

基礎疾患をもつ者

## **XII その他**

- 1) これまでの新型インフルエンザ対応で、特に伝えたいご経験、特に有効と思われた

## **XII その他**

- 1) これまでの新型インフルエンザ対応で、特に伝えたい経験、有効であった対策がありましたら、お書きください。

記述欄

- 2) これまでの新型インフルエンザ対応に有用であった資料がありましたら、お書き下さい。

記述欄

- 3) 他の市町村の新型インフルエンザ対応方法で知りたいこと、あるいは対応の手引きに含めた方がよい内容がありましたら、お書き下さい、

記述欄



調査へのご協力ありがとうございました。

**問い合わせ先：**

平野かよ子（東北大学医学部保健学科）

TEL/FAX:022-717-7925

E-mail:kayhirano@m.tains.tohoku.ac.jp

# 高校生等の集団発生に対する 自治体と学校等の連携対応

## 高校生等の集団発生に対する自治体と学校等の連携対応

### 1. 新型インフルエンザ流行における高等学校、中学校、小学校の臨時休業実態調査から見た新興・再興インフルエンザ流行時における社会防衛と学校の位置付け

研究分担者	西山利正	関西医科大学公衆衛生学講座	教授
研究協力者	三島伸介	関西医科大学公衆衛生学講座	助教
研究協力者	三宅眞理	関西医科大学公衆衛生学講座	助教
研究協力者	中谷逸作	関西医科大学公衆衛生学講座	研究員
研究協力者	山田 明	滋賀県立大学	教授
研究協力者	宮城 啓	長崎大学熱帯医学研究所	助教
研究協力者	吉田常孝	外務省日本国ニューヨーク総領事館	医務官

#### 研究要旨

地域や職場における感染拡大を防止するため、患者や濃厚接触者が活動した地域等における積極的な疫学調査を行い、各自治体における対応が必要である。新型インフルエンザ(A型H1N1亜型)が発生当初、兵庫県内、大阪府内の各自治体においては、政府の新型インフルエンザ行動計画に基づく段階に応じた対応を実施した結果、地域の医療体制等に混乱が生じることとなった。その後、「医療の確保、検疫、学校・保育施設等の臨時休業の要請等に関する運用指針」が策定され、地域の感染拡大の状況に応じた弾力的な対応を提示し、地域の実情に応じた柔軟な対応を実施することに変更された。

新型インフルエンザ発生の兵庫県、大阪府、滋賀県、京都府、東京都、神奈川県における対応・対策の詳細について把握し、その検証結果から浮かび上がる新型インフルエンザ行動計画及び各自治体の新型インフルエンザ対応・対策における問題点等についても明確にする。

本研究はこれらを明らかにして、集団発生がみられた兵庫県・大阪府をはじめとする滋賀県、京都府、東京都、兵庫県の感染動向調査と自治体における新型インフルエンザ対応、対策をまとめ、都道府県等の自治体と情報を共有すること等により、今後の感染症対策の指標とする。また、学校等における休校の効果などについての評価を行うとともに地域における医療体制に関する評価を行う。今後の感染症対策に資することを目的とするものである。

#### A. 目的

平成21年4月にメキシコから始まったA型H1N1亜型(以下:新型インフルエンザ)の流行は同年5月兵庫県神戸市内の複数の高等学校を中心とした流行として輸入が顕性化

し、それ以後徐々に全国規模の流行として拡大していった。今回の新型インフルエンザの流行の特色として、比較的若年層に流行の主体が見られ、例年経験される季節型インフルエンザの流行状況と、流行の時期や感染者の年齢などに大きな違いが見られた。この様に抗体の保有率が低い新型のインフルエンザが社会に流行する場合、飛沫・接触感染をすることから人と人が非常に接近して生活している、学校（高等学校、中学校、小学校）の流行が従来より懸念されていた。今回我々は新興・再興インフルエンザ流行における学校防衛のみならずその community の社会防衛の観点から高等学校、中学校、小学校にアンケートを行い問題点の抽出と地域保健行政機関とのより良い連携のあり方の検討を行った。

本研究は、集団発生がみられた兵庫県・大阪府をはじめとする滋賀県、京都府、東京都、神奈川県、感染動向調査と自治体における新型インフルエンザ対応、対策をまとめ、都道府県等の自治体と情報を共有すること等により、今後の感染症対策の指標とする。また、学校等における休校の効果などについての評価を行うとともに地域における医療体制に関する評価を行う。今後の感染症対策に資することを目的とするものである。

## B. 方法

対象は兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県、神奈川県、東京都の6都道府県にある公立高等学校、中学校、小学校とした。それぞれの学校長宛に「学校とインフルエンザに関するアンケート」を送付し、記入して郵送での返信を求めた。（計 7,384校）

実施期間は平成22年1月28日～2月6日である。それぞれの配布数を表1に示した。

表1. アンケートの配布数

府県	小学校	中学校	高等学校	小計
東京都	1,315	635	176	2,126
神奈川県	862	413	156	1,431
滋賀県	229	99	46	374
京都府	405	169	54	628
大阪府	956	432	165	1,553
兵庫県	786	342	144	1,272
合計	4,553	2,090	741	7,384

## C. 結果

### C-1. アンケート回収率

アンケートの回収は平成22年2月8日の回収の総数は872通で全体の回収率は12%で、小学校436通(10%)、中学校311通(15%)、高等学校124通(17%)であった(表2)

国立学校5校、都道府県立学校123校、市町村立校743校であった。

表 2. アンケート回収状況

学校	小学校	中学校	高等学校	総数
発送数	4,553	2,090	741	7,384
回収数	436	311	124	872
回収率	10%	15%	17%	12%

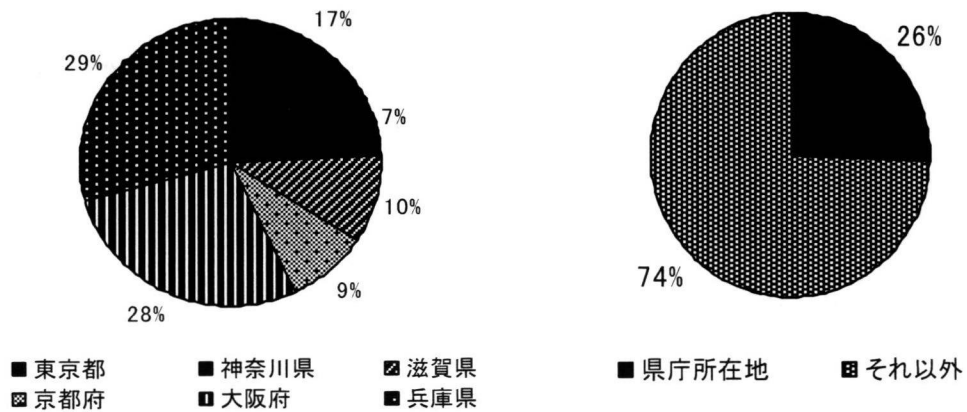


図 1. アンケート回収状況

図2. 回答学校の地域性

図1に示すとおり、回答数とその割合は東京都149校、17%、神奈川県62校、7%、滋賀県87校、10%、京都府75校、9%、大阪府245校、28%、兵庫県253校、29%の回答を得た。それぞれの所在地域は、県庁所在地224校、26%でそれ以外の地域が642校、74%であった。

### C-2. インフルエンザ罹患状況(アンケートの調査結果)

2009年5月1日から2009年12月31日の間にインフルエンザに罹患した生徒(もしくは児童)の1校における最大罹患数は542名であった。図3には罹患数を50人ごとのランクに分け、集計した結果を示した。その結果、1校につき、151名~200名、次に101名~150名の罹患が発生し学校が最も高値を示した。全校生徒(もしくは児童)に占める罹患者の割合は、0~4%は7校、5~9%は4校、10~19%では50校、20~29%は184校で30%以上が617校であった。図4に全体の罹患率と小学校、中学校、高等学校別の割合を示した。

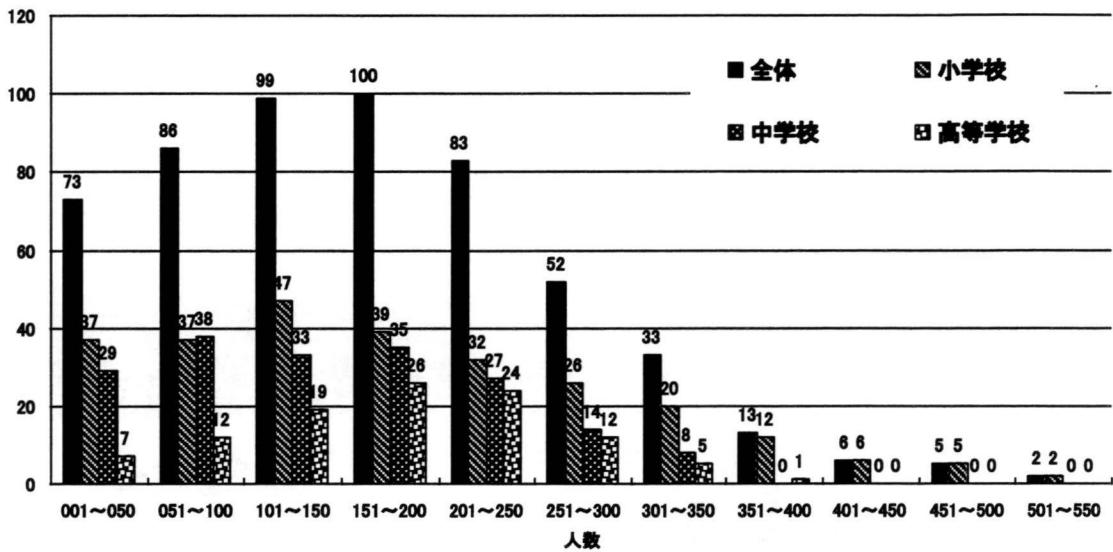


図3. 各学校別の罹患者数

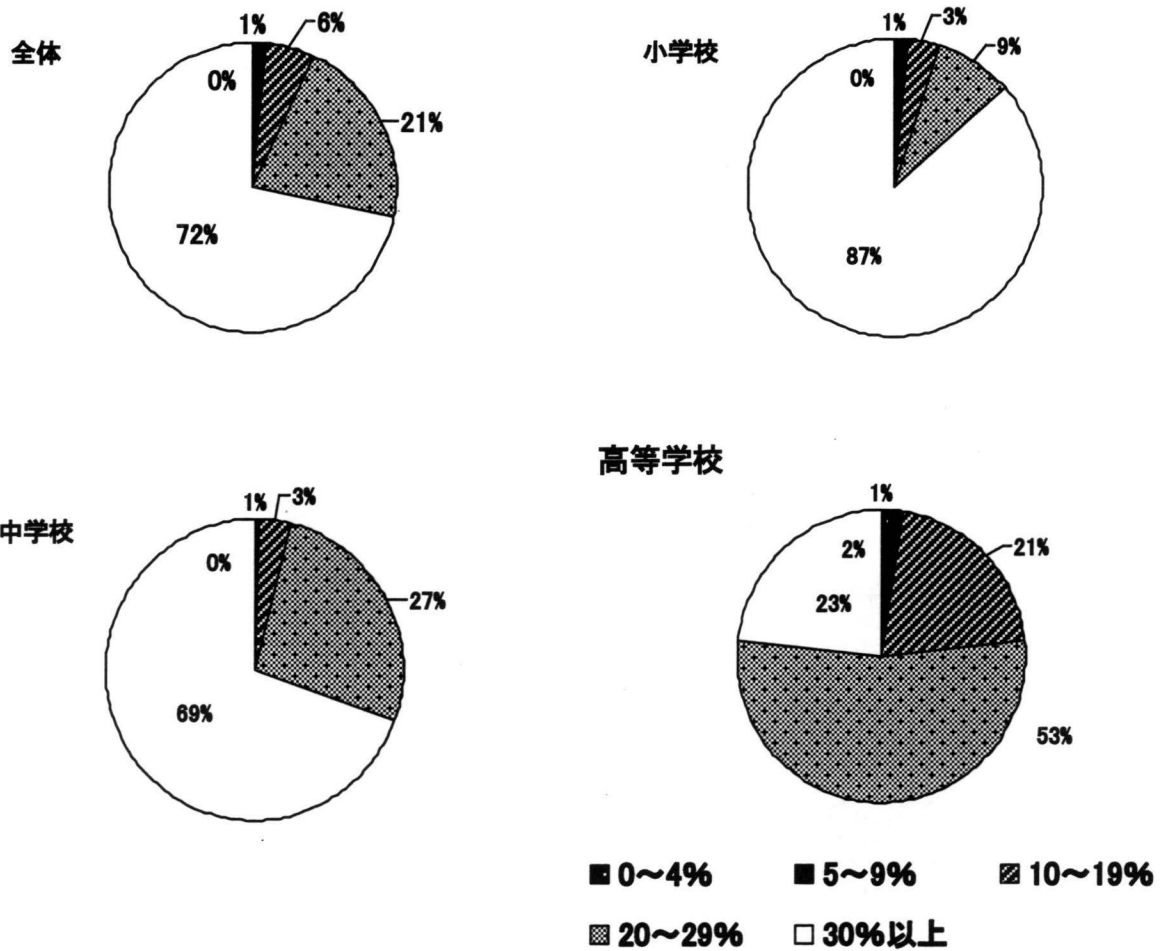


図4. 全校生徒(もしくは児童)に占める罹患者割合

### C-3. 学校の臨時休業の状況(アンケートの調査結果)

今回の調査の結果から学校閉鎖、学年閉鎖を実施した学校数を全体と、小学校、中学校、高等学校の別にグラフにして月別に示した。図8に、学校の臨時休業について、厚生労働省健康局結核感染症課によるインフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)から集計し、学校閉鎖、学年閉鎖、学級閉鎖の回数を示した。図7の本調査結果も同様に、5月、6月には学校閉鎖が対策として行われていたが、夏休み以後の9月からは学年閉鎖や学級閉鎖などに移行していることが示される。

表3. 学校閉鎖・学年閉鎖・学級閉鎖の変動

学校数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
学校閉鎖	303	6	4	1	11	39	31	3
学年閉鎖	4	2	2	0	86	473	391	87
学級閉鎖	5	4	8	3	368	1816	1693	507

学校閉鎖回数

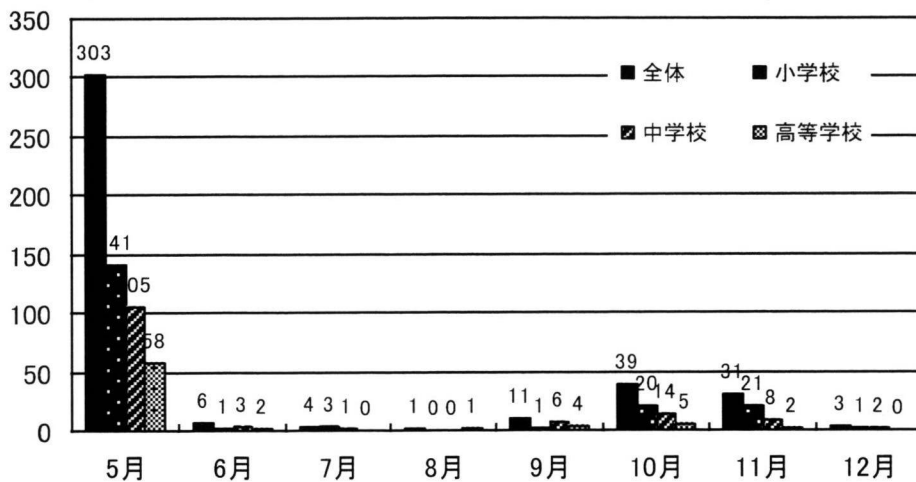


図5. アンケート結果 学校閉鎖回数

学年閉鎖閉鎖回数

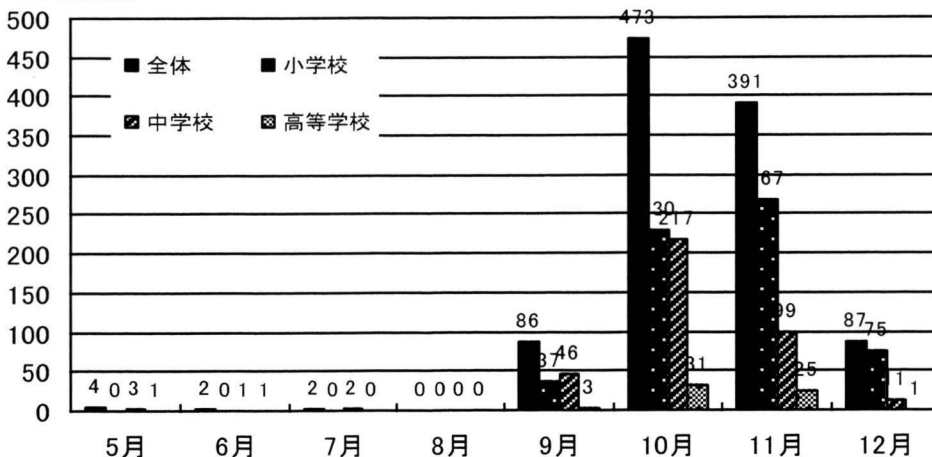


図6. アンケート結果 学年閉鎖

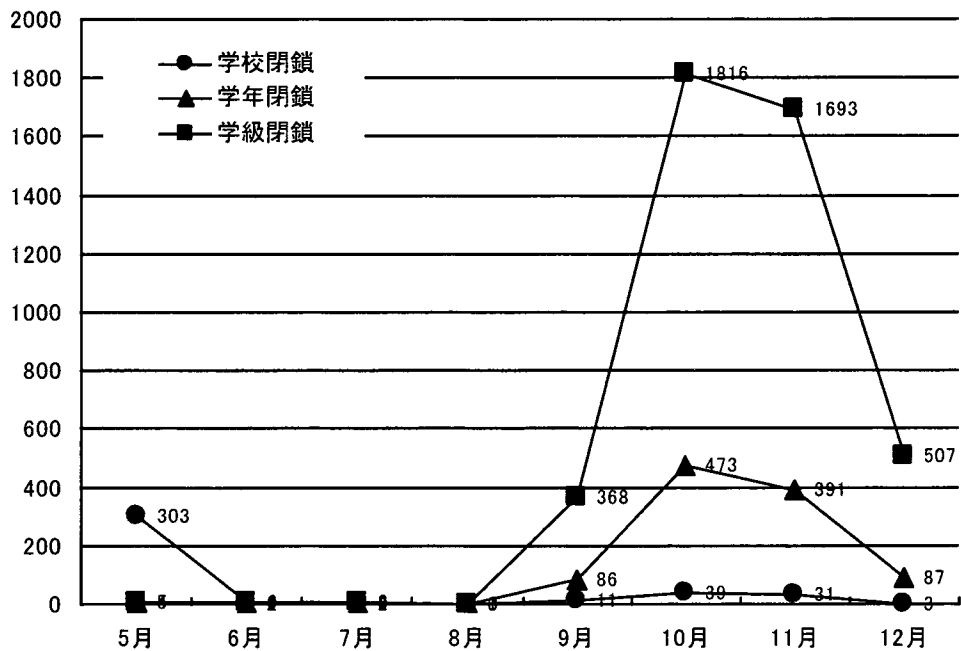


図7. アンケート結果 学校閉鎖・学年閉鎖・学級閉鎖の変動

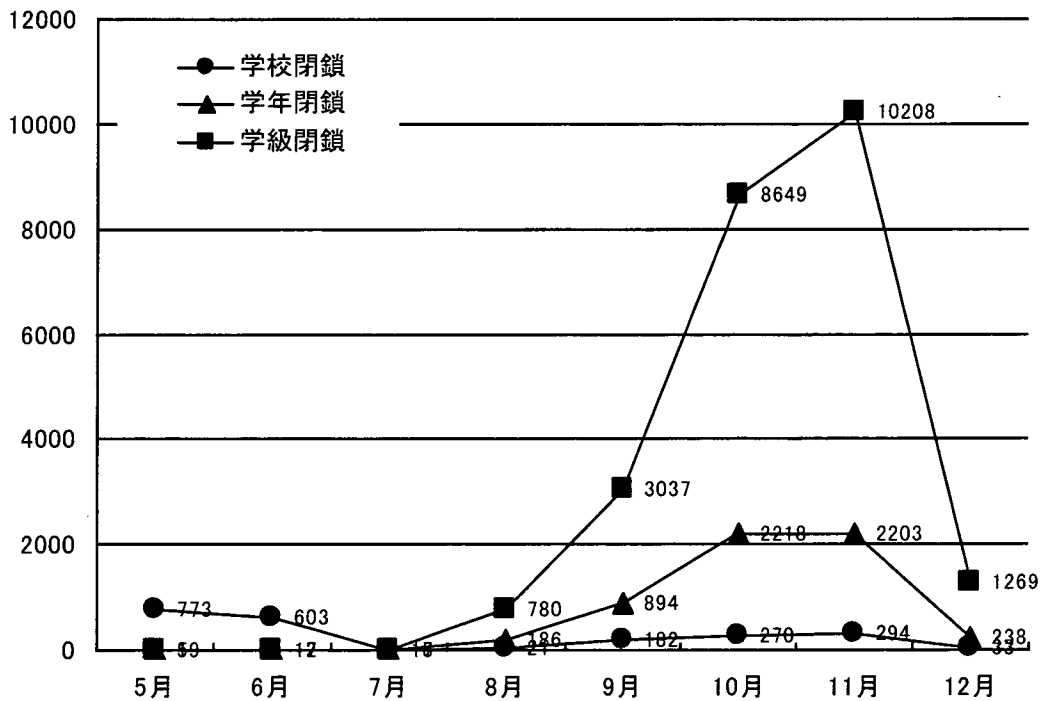


図8. 学校閉鎖・学年閉鎖・学級閉鎖の変動（厚生労働省健康局結核感染症課）

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html>



### C-4. 学校の臨時休業の日数の状況(アンケートの調査結果)

今回の調査の結果から学校閉鎖、学年閉鎖、学級閉鎖を実施した日数を全体と、小学校、中学校、高等学校別にグラフにして月別に示した。全体での学校閉鎖の日数は1406日(303校)が休校したことから、平均4.6日を示し、小学校では547日(141校)が平均3.8日、中学校554日(105校)5.2日、高等学校311日(58校)平均5.3日であった。

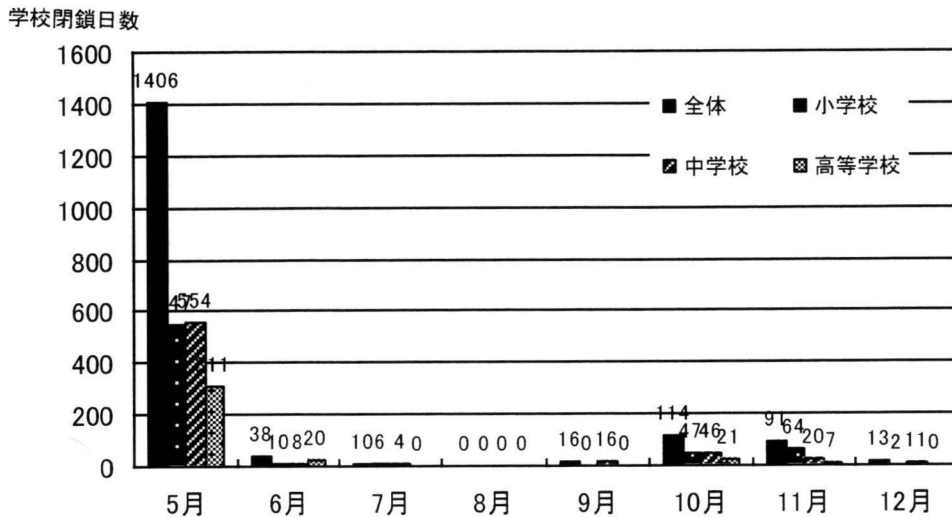


図9. アンケート結果 学校閉鎖の日数

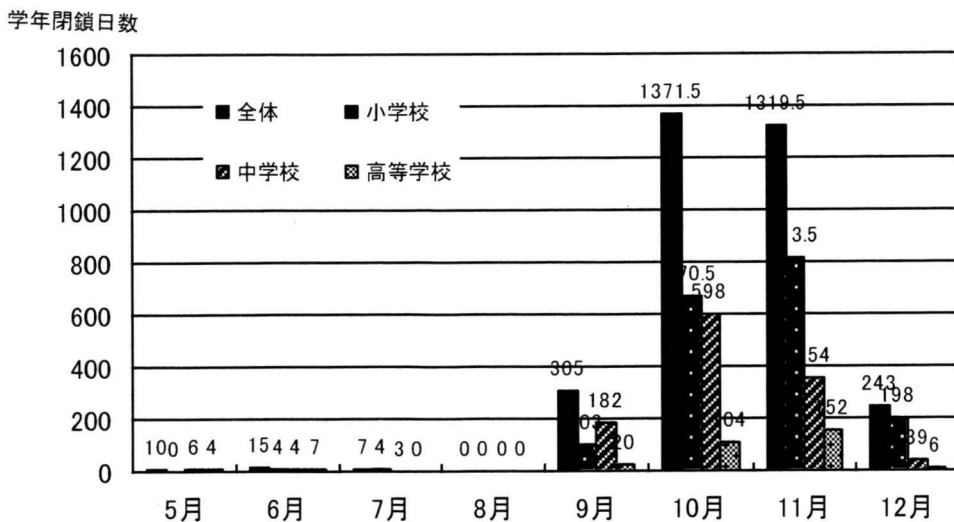


図10. アンケート結果 学年閉鎖の日数

学級閉鎖閉鎖回数

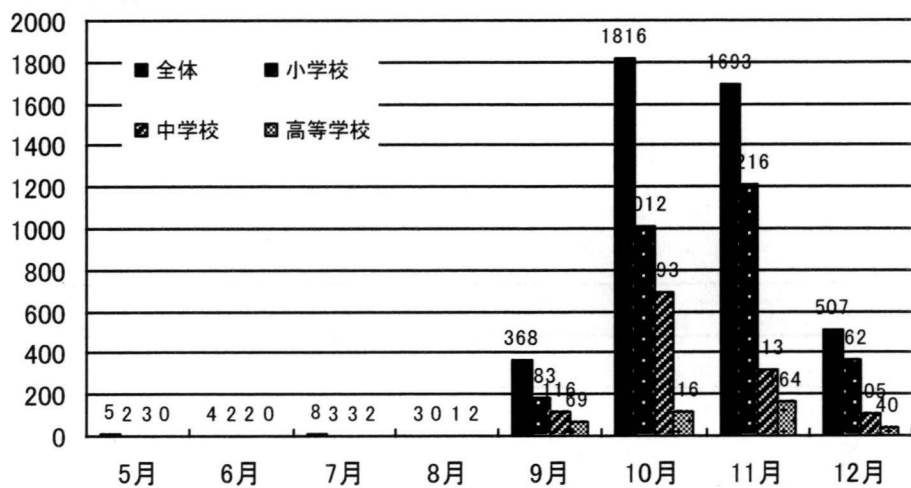


図11. アンケート結果 学級閉鎖の日数

C-5. 臨時休業を決定する際の重点事項(アンケートの調査結果)

1) 最も重視したもの

インフルエンザによる臨時休業を決定する際に最も重視するものについて、質問したところ、最も教育委員会の指針を重視している学校が多く、高等学校の回答においては87%を占めており、次に学校医の意見、養護教諭の意見を重視していることが明らかになった。

表4. 臨時休業を決定する際の最も重視した事項

	教育委員会の方針	学校医の意見	保健所の意見	養護教諭の意見	その他	合計
全体	518	254	7	29	72	880
小学校	232	160	3	11	33	439
中学校	179	86	3	13	36	317
高等学校	107	8	1	5	3	124

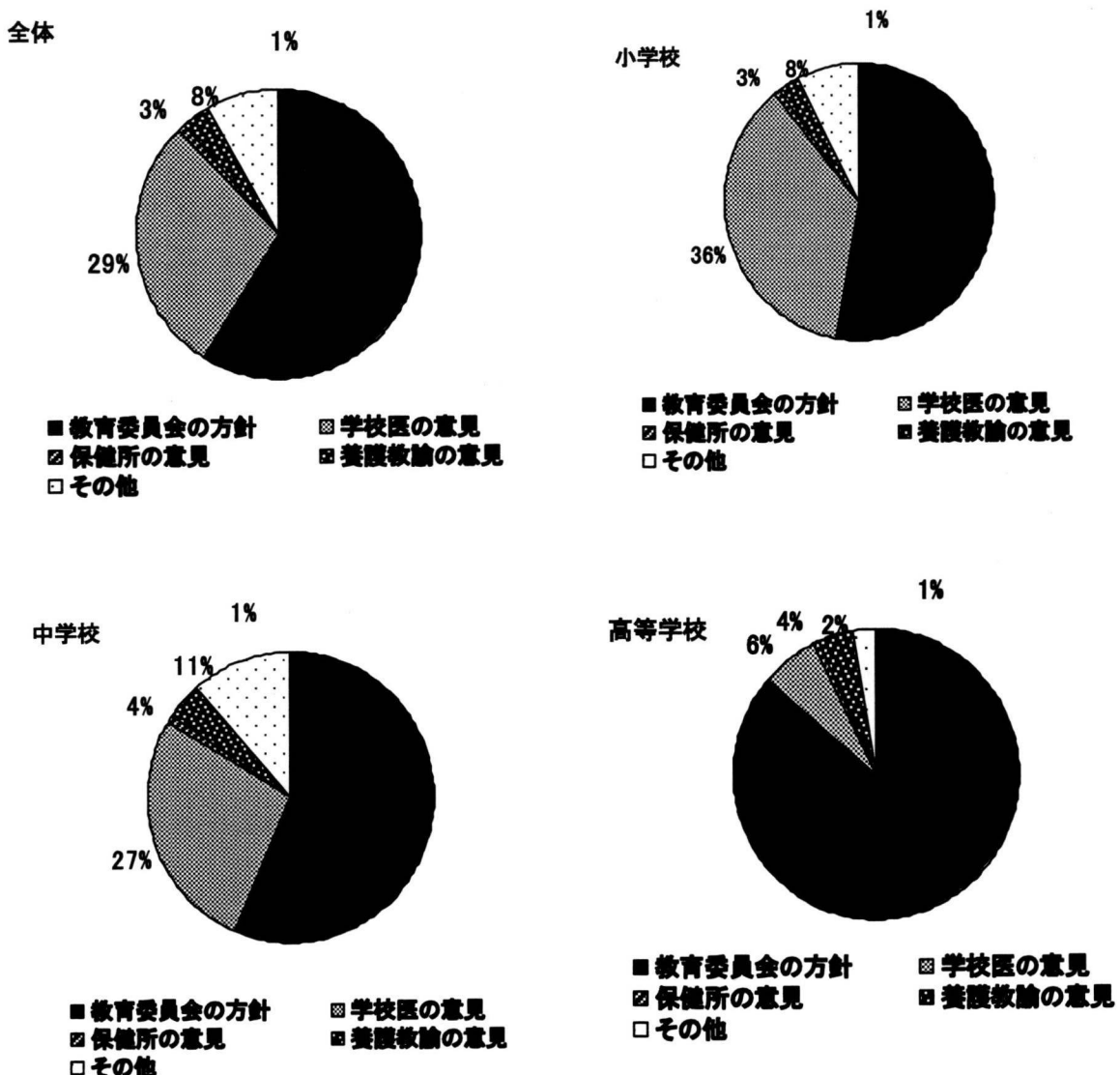


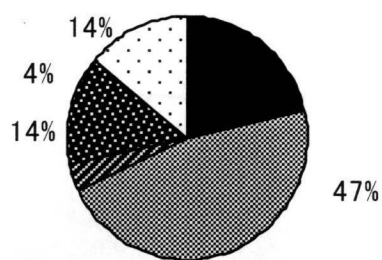
図12. アンケート結果 臨時休業を決定する際の最重点事項

インフルエンザによる臨時休業を決定する際に二番目に重視するものについて、質問したところ、学校医の意見、養護教諭の意見を重視しており、臨時休業を決定する際の重点事項が明らかになった。

表5. 臨時休業を決定する際の二番目に重視した事項

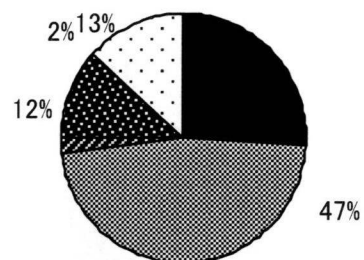
	教育委員会の方針	学校医の意見	保健所の意見	養護教諭の意見	その他	合計
全体	184	402	31	125	121	863
小学校	111	203	9	50	57	430
中学校	66	127	9	68	43	313
高等学校	7	72	13	7	21	120

全体



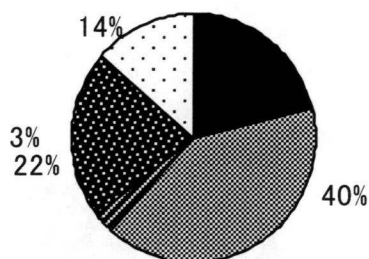
■ 教育委員会の方針  
 ▨ 学校医の意見  
 ▩ 保健所の意見  
 ▤ 養護教諭の意見  
 □ その他

小学校



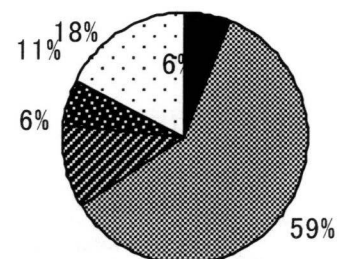
■ 教育委員会の方針  
 ▨ 学校医の意見  
 ▩ 保健所の意見  
 ▤ 養護教諭の意見  
 □ その他

中学校



■ 教育委員会の方針  
 ▨ 学校医の意見  
 ▩ 保健所の意見  
 ▤ 養護教諭の意見  
 □ その他

高等学校



■ 教育委員会の方針  
 ▨ 学校医の意見  
 ▩ 保健所の意見  
 ▤ 養護教諭の意見  
 □ その他

図13. アンケート結果 臨時休業を決定する際の重点事項